西美濃厚生病院の診療体制は

町長 回復期・慢性期機能の診療へ

◆水谷久美子　議員

10月から外科・麻酔科は、非常勤体制となり週3日、週1日など診療体制が縮小される。高齢化の中、不安の声が広がっている。

問　令和元年、再編計画が病院側から議会に示された。その後、町から議会への報告が一切ない。この間、双方での協議の有無は。

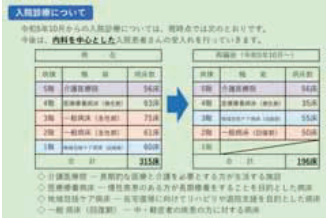
答　岐阜県・西濃医療センター西美濃厚生病院運営協議会で説明を受けている。現状の診療体制確保や救急車の受け入れ要望をしてきた。

問　現状の医療体制を切に望む町民の声に町の答えは。

答　生活習慣病、検診センターでの早期発見・予防、介護医療院の病床堅持、災害時の拠点病院等々、再編後も現状維持を要望している。

問　西美濃厚生病院へのシャトルバス運行について、運賃やルート、車椅子対応は。

答　救急車・シャトルバスとも高速道路を使用。車椅子での乗車はできない。運賃は無料となる。



西美濃厚生病院提供資料より抜粋

補聴器購入に助成制度を

町長 国・県・他市町村の動向を注視

加齢性難聴も含め、身体障がい者手帳の交付対象とならない難聴者への補聴器助成制度を創設した自治体が全国に広がっている。

問　県内においては、現在、3市、2町、1村と、6月議会に関市が補正予算でこの事業を立ち上げると聞き及んでいる。いずれの市町村も「高齢者の就労や社会参加、認知症予防、購入費用が高額である。」ことをうたっている。

調査研究も含めこの事業創設の進捗状況は。

答　県内の42市町村の内、7自治体で助成制度を導入している。国・県の補助制度が創設されれば検討するとの市町村も多いとの現状を把握している。

問　第8期介護保険事業計画・老人福祉計画における目標指数の達成やウィズコロナ活動を保障するため早急な対応を求める。また、加齢性難聴は、75歳以上で7割が発症し、誰もがその可能性を有する課題である。この事業の予算は町財政をひっ迫する額ではない。「創って・使って・育てる」施策として検討して頂きたい。

答　介護予防講座などで難聴者の気持ちを理解するよう周知したい。

補聴器購入補助の自治体名

飛騨市、関市、高山市、海津市
岐南町、輪之内町、白川村
（2023年7月現在）

ほかに「緑化推進施策について」の質問もしました。

観光の企画、取組、発信は

町長 活動の充実を図り取り組む

◆清水由美子　議員

令和6年は、町制70周年を迎える。文化・芸能・芸術の視点から、町全体の観光、観光の町の養老の来年、その後の方向性を問う。

問　来年度以降の観光に関する取組と町内への周知は。

答　「ヨロラボ」により、観光資源の磨き上げと観光コンテンツの造成に取り組む。地域の方々が参画できる企画により、周知と成功体験を重ねる。

問　当町の文化・芸能からの発信は。

答　本年は「第26回岐阜県文楽・能大会ようろう2023」が開催され、来年度は「清流の国ぎふ」文化祭2024の事業を開催する。

問　町全体で観光を考えた時、祭りを含め、文化・芸能等と観光を絡めた発信方法はできないか。

答　昨年度、観光ガイドマップを更新し、デジタルマップで祭りも紹介した。観光客の目に止まるように改修していく。

問　昨年提案した「葛飾北斎、滝繋がり、友好都市」について町の考えは。

答　友好都市締結の理由の一つとなり得る。鹿児島との交流事業も継続する。地域振興の継続、発展に寄与できるものについて検討していきたい。

北斎の養老の滝と観光マップ

給食費の無償化は

教育長 財政状況を鑑みながら考慮

◆大橋みち子　議員

コロナ禍や物価高騰などの影響から、保護者の経済的負担を軽減するため、小中学校の給食費の段階的な公費負担が望まれる。

問　学校給食の公費負担の現状は。

答　給食費の2割を公費負担しており、小学校では900円、中学校では1060円を公費負担している。さらに、物価上昇分を補助するため、昨年7月よりデザート分の経費を公費負担し、今年度も継続している。

問　給食費の値上げについては。

答　高騰する食材の代替やメニューを工夫し、給食を実施しており、給食費を即座に値上げすることは考えていない。一方で、子どもたちの発育と健康を考えた内容で、栄養価を確保するため、今以上に高騰すれば学校給食運営委員会等で協議し、検討していく。

問　学校給食の段階的な公費負担は。

答　無償化を進めていくにあたり、財政状況を鑑み、子育て施策の課題である少子化対策等も考慮しつつ、結論づけていく。

おいしい給食